

AMCoR

Asahikawa Medical College Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

日本尿路結石症学会誌 (2008) 6巻2号:63～67.

上部尿路結石症患者に対する結石再発予防に関する意識調査

加藤祐司、玉木岳、安住誠、北雅史、佐々木寛、奥山光彦、柿崎秀宏

上部尿路結石症患者に対する結石再発予防に関する意識調査

旭川医科大学

加藤 祐司

上部尿路結石症患者に対する 結石再発予防に関する意識調査

旭川医科大学泌尿器科

加藤祐司 玉木岳 安住誠 北雅史
佐々木寛 奥山光彦 柿崎秀宏

目的

上部尿路結石症の再発および予防に関して
questionnaireで患者の意識について調査した

背景

- ・上部尿路結石症は再発の可能性が高い疾患である
- ・ESWLなどの低侵襲の碎石術の発達により、治療者は結石再発に対して内科的予防治療よりも碎石術を選択しやすい状態にある
- ・患者が結石再発についてどのように感じ、何を希望しているのか検討した報告はほとんど無い

上部尿路結石症はご存じのように再発の可能性が高い疾患ですが、ESWLなどに代表される低侵襲の碎石術の発達により、結石の治療者は結石再発に対し内科的予防治療よりも碎石術を選択しやすい状態にあると思われます。しかし、結石患者がその再発に対してどのように感じ、どんな希望があるかについて検討した報告はほとんどありません。

そこで今回の検討では結石再発と予防に関して
questionnaireで患者の意識について調査しました。

対象

2005年と2006年に当科で上部尿路結石症
として外来を受診もしくは外科的治療を
受けた年齢18～80歳の患者

対象は2005年と2006年に当科で上部尿路結石症として外来を受診するか、外科的治療を受けた18歳から80歳の患者です。

検討方法

・対象となった患者に、本検討の趣旨を説明する文章を同封しquestionnaireを郵送

・無記名で回答(返送料無料)

・下記論文で使用されたquestionnaireを元に日本語訳を作成(全22問)

Tiselius HG: Patients' attitudes on how to deal with the risk of future stone recurrence. Urol Res 34: 255-260, 2006

検討方法は、対象となった患者に本検討の趣旨を説明する文章と一緒に questionnaire を郵送しました。質問の内容は昨年 of Urological research に掲載された Dr Tiselius の論文の中で使用されたものを元に日本語訳を作成し、更に独自の項目も追加しました。無記名での回答をお願いしました。

結果

・285名の患者に郵送

・21名が転居先不明のため返却

・残り264名中191名から回答
(回収率: 72.3%)

結果ですが、285名の患者に郵送し21名が転居先不明で残りの264名中191名から有効な回答を得ました。回収率は72.3%でした。

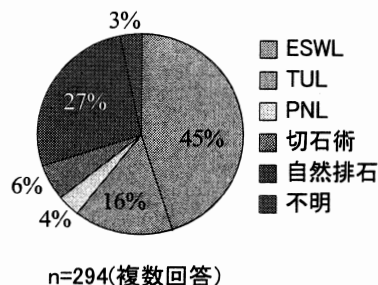
患者背景

	Men	Women	Total
現年齢(歳)	: 60.4±12.9	61.1±13.0	60.7±12.9
患者数	: 109	82	191
初発年齢(歳)	: 49.0±15.8	51.0±16.0	49.9±15.9
Stone episode(回)	: 2.5±2.4	2.3±2.1	2.4±2.3

初発: 97(51%) / 再発: 94(49%)

名、現在の年齢が60歳前後、初発年齢が50歳前後で stone episode は2.4回前後でした。初発患者と再発患者の割合はほぼ半々でした。

治療法



患者から回答のあった結石に対する治療法の内訳です。ESWLを受けた患者が最も多く45%を占め、ついで自然排石、TULと続きました。PNLは4%、切石術は6%でした。

Q-5: 結石になった時の痛み(またはつらさ)の程度は?



【まったくなく・かすかにあった・軽度・中くらい・強い・非常に激しい・未回答】

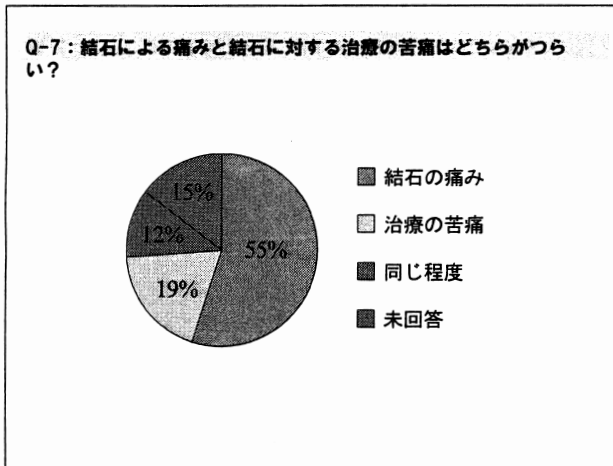
Q-6: 将来、結石の再発時に同じ痛み(つらさ)を経験するとしたらどう思う?



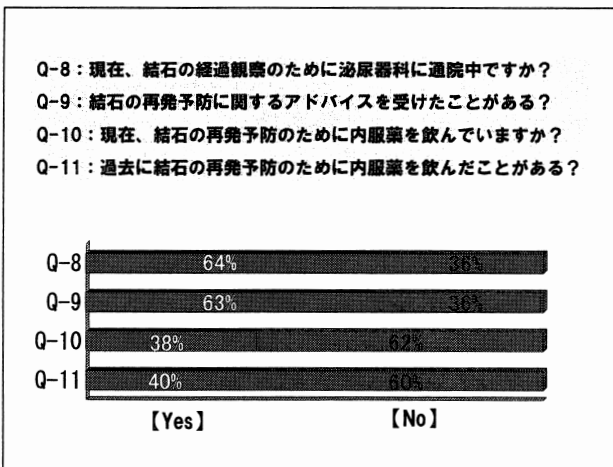
【全くつらくない・ほとんどつらくない・どちらでもない・つらい・非常につらい・未回答】

結石になった時の痛みまたはつらさについて、6段階で回答してもらいました。その結果「非常に激しいものだった」と回答した患者が42%で「強い痛み」と回答した患者とあわせると60%以上の患者が結石発症時はつらかったと感じていました。一方、「全くつらくない」と回答した患者も21%占めていました。次に将来、同じ痛みやつらさを経験するとしたらどう思うかという質問に対しては5段階で回答してもらいましたが、約半数が「非常につらく」、「つらい」と回答した患者を合わせると70%に達しました

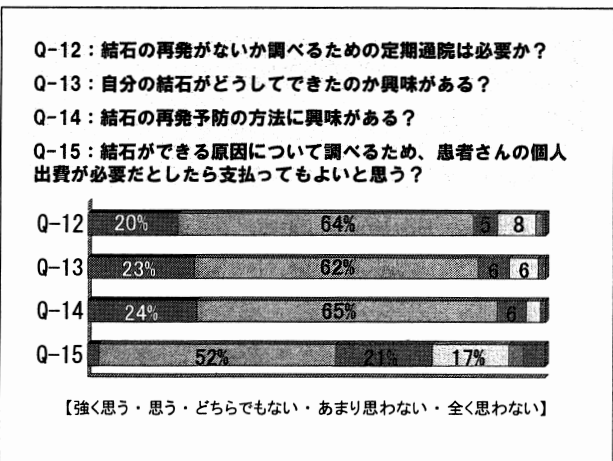
回答者の背景を示します。男性109名、女性82



次の質問は、結石による痛みと結石に対する治療の苦痛はどちらが辛かったというものです。半数以上の患者が結石による痛みのほうが治療の痛みよりも辛いと回答しました。

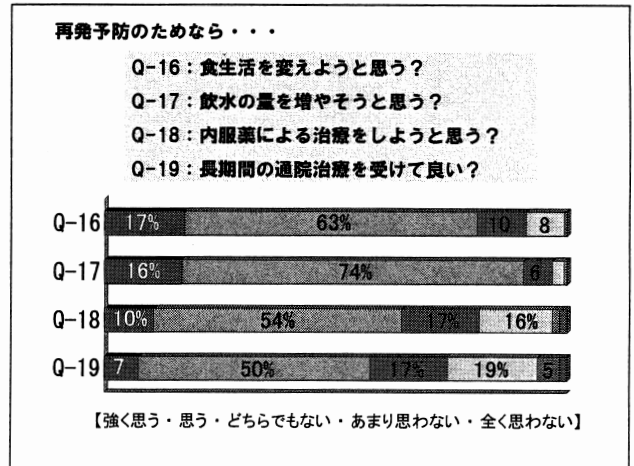


約60%の患者が現在、結石の経過観察のために通院しており、過去に再発予防についてのアドバイスを受けたことがある回答しました。一方、再発予防の内服薬については約40%が現在内服中または過去に内服経験があると回答しました。

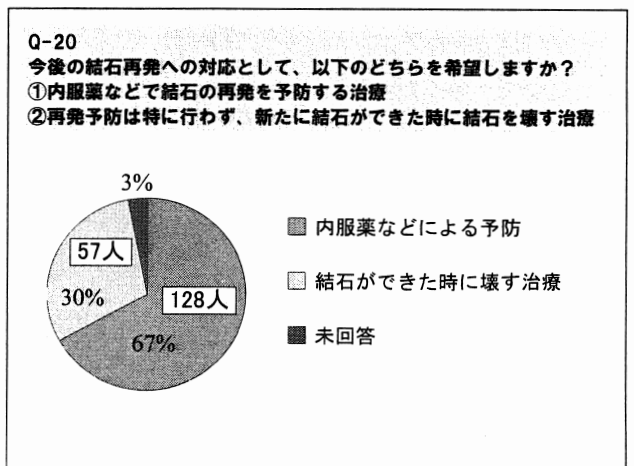


結石の再発の有無をみるために定期的な通院は必

要かどうか聞いたところ、5段階で回答してもらいましたが、「強く思う」20%、「思う」64%、計80%以上が肯定的な意見を有していました。同様に結石成因や結石の再発予防に対して85%、89%が興味があると回答しました。一方、結石成因を調べるために患者の出費が必要だとしたらどう思うかとの質問には半数の患者が支払っても良いと回答しました。

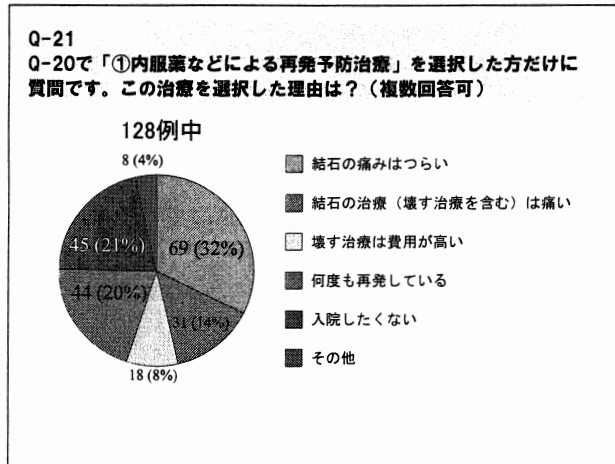


再発予防の方法に関連した質問ですが、再発予防のためなら食生活を変えても良いかとの質問では17%が「強く思う」、63%が「思う」と回答し、飲水の量を増やしても良いと回答した患者は同様に16%と74%で、80%から90%の患者が肯定的な意見を持っていました。一方、内服薬による再発予防に対しては、「強く思う」10%、「思う」54%で合計64%、長期間の通院治療を受けても良いと回答した患者は57%という結果でした。

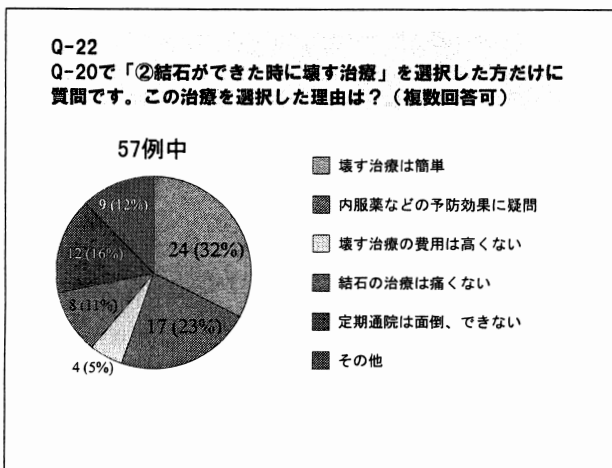


今後の結石再発に対して、内服薬などによる再発予防と再発予防は行わず、結石の再発した時に壊す治療のどちらを選択するかの質問に対しては、67%が内服薬などによる予防と回答し、30%が碎石術を

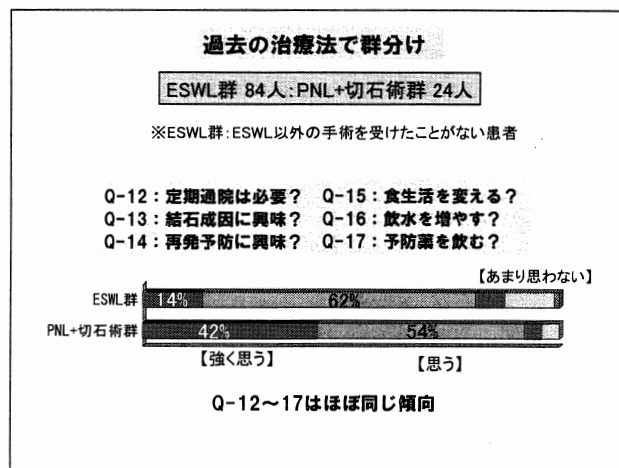
選択しました。



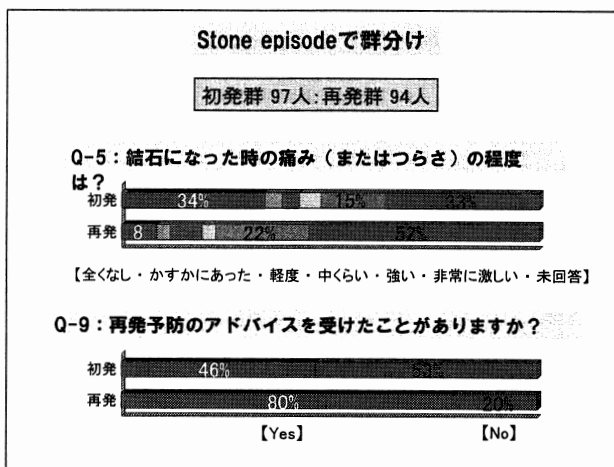
問20の質問で、内服薬などによる予防を選択した患者にその理由について、5項目から選択してもらったところ、32%が結石の痛みが辛いから、20%が何度も再発しているため、入院したくないが21%で、結石の治療は痛いのが14%、壊す治療は高額が8%でした。



一方、再発したときに治療を選択した患者にその理由を選択して貰いましたが、32%が壊す治療は簡単だからを選択し、23%は再発予防の効果に疑問があるとするものでした。その他、定期通院は面倒、できないと回答したのが16%、結石の治療は痛くないと回答した患者が11%でした。



これまでの検討は全患者を対象としたものですが、幾つかの群に分けて何か特徴はないか検討してみました。まず過去の治療法で ESWL 以外の手術を受けたことがない群と侵襲的な手術として PNL または切石術を受けたことのある患者で分けてみました。患者数はそれぞれ84人、24人です。特徴的だったのは再発予防に関する問12から17までの6つの質問で、PNL + 切石群は食生活や飲水習慣の変更や通院、再発予防薬の内服に対して強く肯定的に思うと回答した患者の割合が ESWL 群よりも多い傾向でした。



次に初発群と再発群でわけてみましたが、結石になったときの痛み、つらさについては初発群では全くなしと回答した患者が34%と最も多く占めたのに対し、再発群では全くつらくない患者は8%で50%以上が非常に激しいと回答しました。また過去に再発予防のアドバイスを受けたかどうかの質問に対しては再発群は80%が YES と回答したのに対し、初発群では53%が受けたことがないと回答しました。

結果のまとめ

- ・結石成因、再発予防に関して、84～89%の患者が興味を持ち、再発予防の目的で食生活、飲水習慣の変更に80～90%の患者が肯定的であった
- ・再発予防のための内服治療には64%、長期間の通院治療には57%の患者が積極的に希望する結果であった
- ・結石の再発への対応は、67%の患者が再発予防治療を希望し、30%が再発した時に碎石術を希望すると回答した
- ・過去にPNLや切石術といった侵襲的治療を受けた患者は再発予防に肯定的な考えを持っていた
- ・結石再発群は初発群よりも、結石の疼痛に対しつらいと思う割合が多かった

結果のまとめを示します。結石成因や再発予防に対しては80%以上の患者が興味を持ち、食生活や飲水習慣の変更に80%から90%の患者が肯定的な意見を持っていました。一方、再発予防の内服治療や長期の通院治療には約60%の患者が希望するという結果でした。結石の再発への対応としては、約70%の患者が再発予防治療を選択し、残る30%が再発したときに碎石術を希望すると回答しました。過去にPNLや切石術といった侵襲的治療を受けた患者はESWLしか受けたことのない患者と比較して再発予防に肯定的な意見を持っていました。再発患者は初発患者よりも結石の痛みは非常に激しいと思う割合が多く、初発群は全くつらくないと回答した割合が多かったです。

考察

Dr.Tiseliusの結果では・・・

- ・再発予防のため食生活や飲水習慣を改めることに、90%以上の患者が肯定的であり、内服治療は71%が選択した
- ・Stone former、50歳以上の患者では、有意差を認めなかったが、内服薬による再発予防に対し好意的な意見を持っていた
- ・今後の結石再発への対応として、64%が内服薬による再発予防を選択し、36%が再発した時に外科的治療を行うと回答した

我々の検討結果もほぼ同じ傾向であった

考察です。本検討の元になったDr.Tiseliusの検討結果では、食生活や飲水習慣を改めることに90%以上、内服治療には70%の患者が肯定的で、stone formerや50歳以上の患者では有意差を認めませんでしたが、内服薬による再発予防に好意的でした。結石再発への対応も64%が内服薬による再

発予防を選択する結果であり、今回のわれわれの結果もこれとほぼ同じ傾向にあることがわかりました。

今回の検討結果から

- ・結石の治療・排石後、全患者に対し結石成因、食生活飲水習慣、内服薬など再発予防法について説明
- ・経験したstone episodeがつかったかどうか、再発予防のための内服治療或いは通院を希望するか聴取（特に初発患者）
- ・再発患者やPNLなどの侵襲的治療の経験者など再発予防に肯定的な患者に対しては、metabolic abnormalityの確認と適切な再発予防法の呈示、定期的通院を推奨

最後のスライドですが、今回の検討結果から考えた再発予防に関する患者への対応について示します。まず80%以上の患者が結石成因や再発予防に対して興味を持っていることから、結石の治療後には、全患者に対し結石成因と再発予防に関する一般的事項について説明をするべきと思います。しかし、特に初発患者では経験したstone episodeがつかなくなかった割合が比較的多く、これらの患者には再発予防の内服治療や今後の通院について希望するか聞いた方がよいかもしれません。一方、再発患者は結石の痛みを非常につらいと感じ、PNLなどの侵襲的治療の経験者は再発予防に肯定的な意見を持っている割合が多いことから、これらの患者にはmetabolic abnormalityの確認と適切な再発予防の呈示、定期的通院を推奨するべきと思われました。